

今回の報告事項

- 1. 平櫓周辺石垣 危険部位の措置（案）の検討【報告】
- 2. H121、H122の解体範囲案の再検討【報告】

これまでの主な検討経過

- 【平成30年度】
 - 3月28日：文化財修復検討部会 ○平櫓下石垣について
→平櫓下石垣（北面：H121）の解体修理は必要
- 【令和2年度】
 - 7月 3日：石垣・構造合同WG ○石垣履歴・被害状況の報告 ○石垣解体修理範囲案の検討
 - 10月 9日：建築・石垣・構造合同WG ○石垣解体修理範囲案承認
- 【令和3年度】
 - 8月 6日：文化財修復検討会後現場視察 ○平櫓下石垣修理工事範囲に隣接する石垣（H438）の危険部位の措置を検討する
 - 9月13、15日：事前視察 ○危険部位の措置（案）検討、○H121・H122の解体範囲案の再検討

1. 平櫓周辺石垣 危険部位の措置（案）の検討【報告】

- ・H438を目視での変状調査、3Dレーザー測量による縦断面図より変状の大きな範囲について解体する。
 - ・H438と隣接するH434の前面の栗石（H437裏込め）を回収した結果、H434はH437裏込め上に築かれており、H438、H438-1 を解体すると自立できないため、同時に解体する。
- 資料3-2 平櫓周辺石垣 履歴・被害状況把握図H438
 - 資料3-3 平櫓周辺石垣 危険部位の措置（案）の検討 H438
 - 資料3-4 平櫓周辺石垣 履歴・被害状況把握図、H434危険部位の措置（案）の検討

2. H121、H122の解体範囲案の再検討【報告】

- ・H438とH122は入隅で石材が噛み合い、噛み合っている箇所のH438、H122の変状は大きくないため、H122の解体範囲を縮小する。
 - ・H122の解体範囲を縮小した場合、H121も当初の解体範囲まで解体することができないため、再検討し解体範囲を一部縮小する。
 - ・解体範囲を縮小しても、復旧勾配との離隔は小さく、積み直し可能であると判断しているが、解体作業が進んだ後、最終解体範囲の確認は現地にて行う。
- 資料3-5 平櫓周辺石垣 解体修理範囲（案）の再検討 H122
 - 資料3-6 平櫓周辺石垣 解体修理範囲（案）の再検討 H121

【現況写真】※2021年9月17日時点



H438 北から



H434, H438 北東から



H434 東から



H434 南東から

《石垣履歴把握について》

- ①熊本城石垣 6 期(1632～1871年) 【修理 1】
築石部：水平方向に横目地が通る→方形を呈した築石を積む
- ②熊本城石垣 6 期(1632～1871年) 【修理 2】
築石部：横目地が通らない→非方形を呈した築石を多く積む
- ③熊本城石垣 6 期(1632～1871年) 【修理 3】
築石部：水平方向に横目地が通る→方形を呈した築石を積む
- ④文化財修理(昭和期か) 【修理 4】

《参考：現存櫓履歴》 ※熊本市1978報告書より

寛永10年(1633) 再建か(礎石下出土木札)
元禄前期(1690年代) 修理あるいは再建(瓦銘)
正徳5年(1715) 修理あるいは再建(瓦銘)
天明8年(1788) 修理あるいは再建(鬼瓦銘)
安政7年(1860) 修理あるいは再建(瓦銘)
昭和2年(1927) 修理あるいは再建(瓦銘)
昭和28年(1953) 解体修理
昭和52年(1979) 屋根葺替・塗装・部分修理

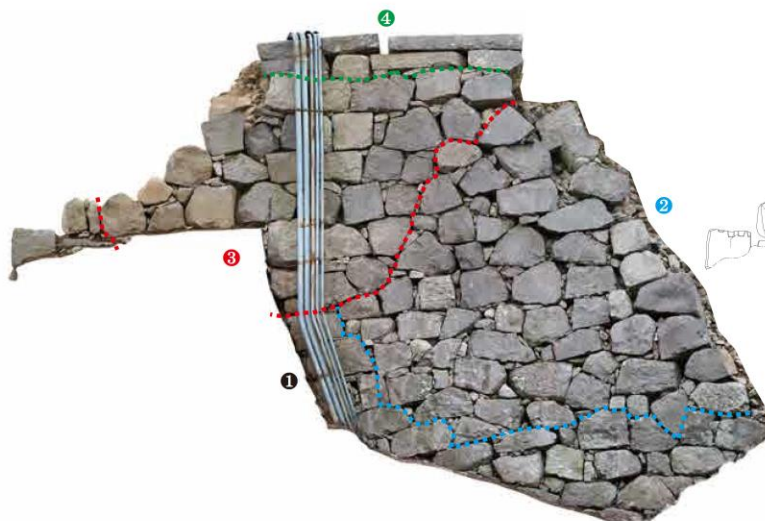
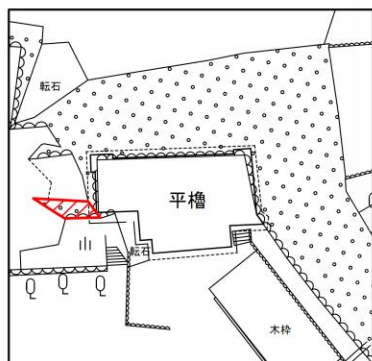


H438

オルソ写真

被害状況凡例

：変形(膨らみ・緩み)	：間詰石抜け
●：突出・ズレ	●：割れ・ヒビ
●：凹み	○：新補石材
●：剥落	—：今回の崩落ライン
●	—

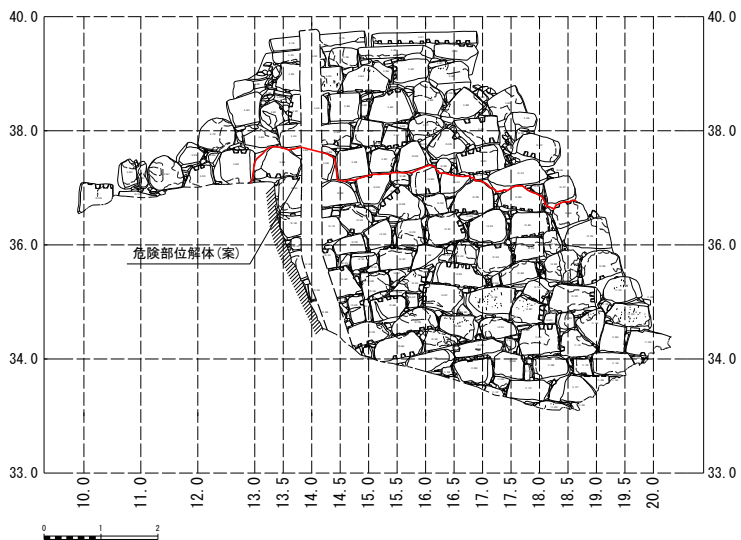


H438

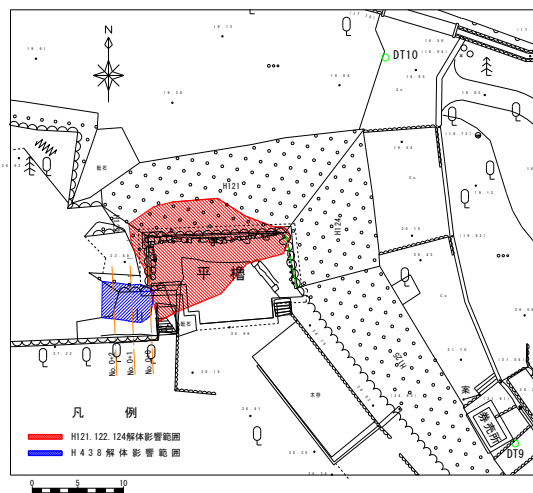
オルソ写真【石垣履歴図】・被害状況図



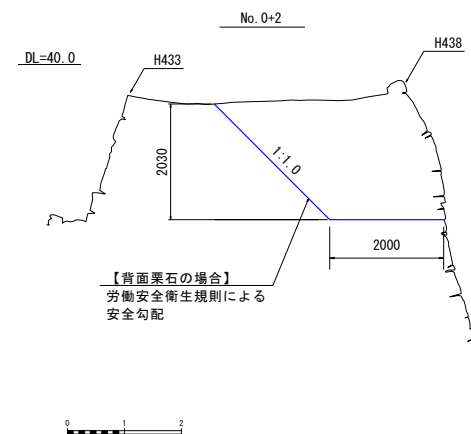
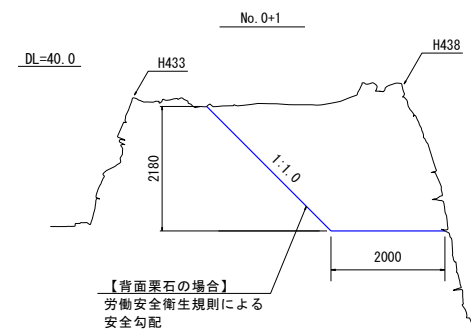
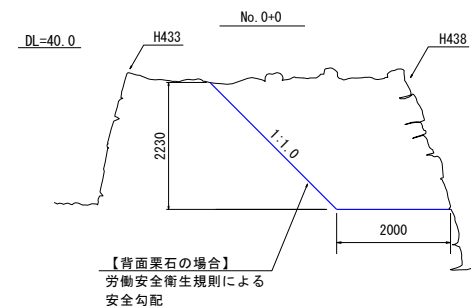
立面図



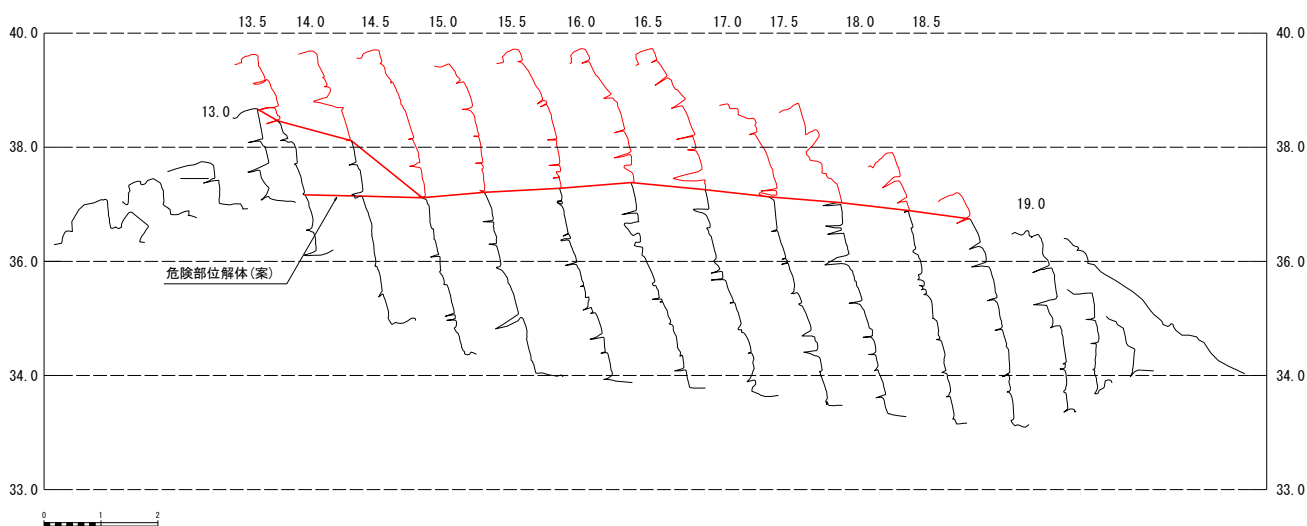
平面図



縦断図



縦断図

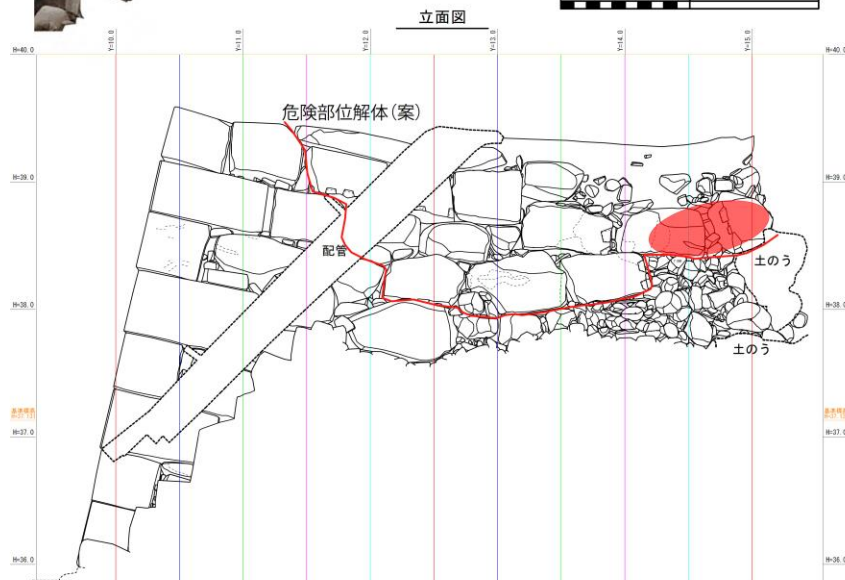
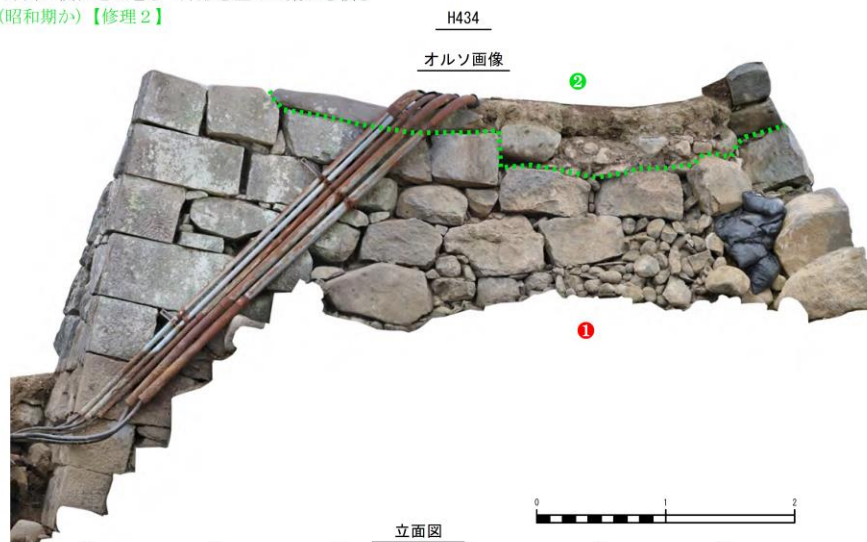


《石垣履歴把握について》

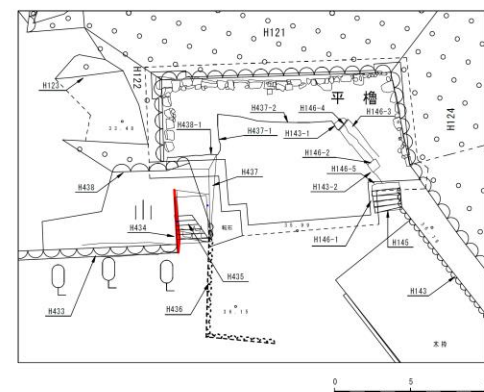
① 熊本城石垣 6 期 (1632～1871) 【修理 1】

築石部：水平方向に横目地が通る→方形を呈した築石を積む

② 文化財修理 (昭和期か) 【修理 2】

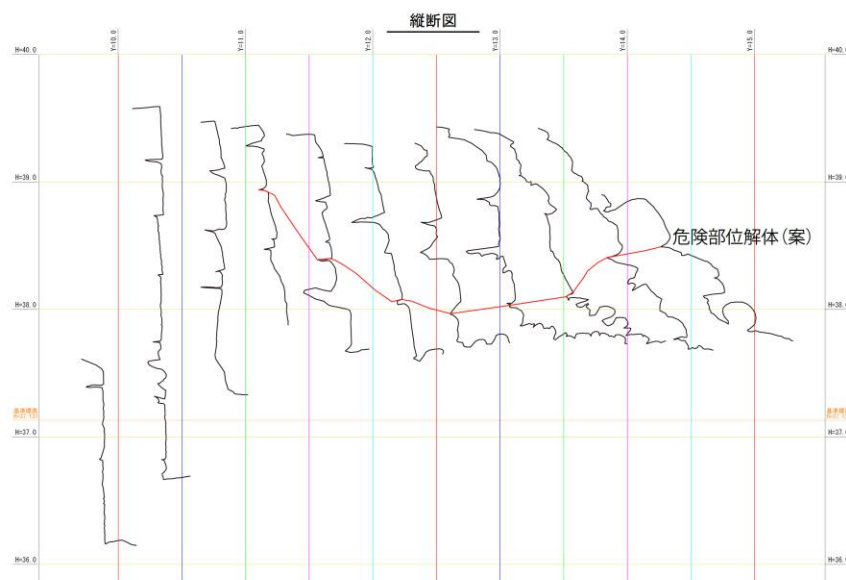


位置図

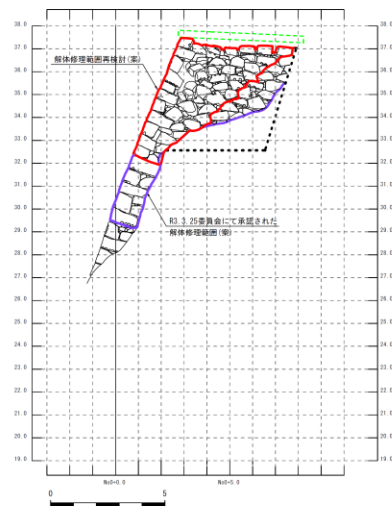


被害状況凡例

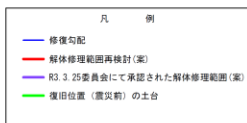
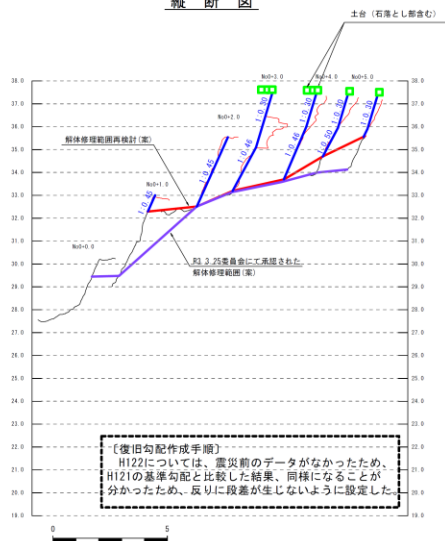
変形 (膨らみ・緩み)	間詰め抜け
突出・ズレ	割れ・ヒビ
変形 (凹み)	新補石材
剥落	今回の崩落ライン



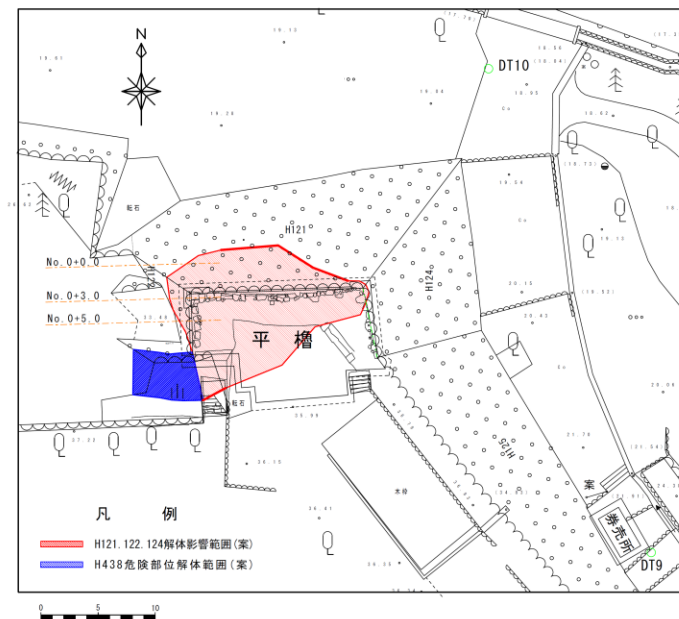
立面図

当初 A=25.7m²変更 A=15.9m²

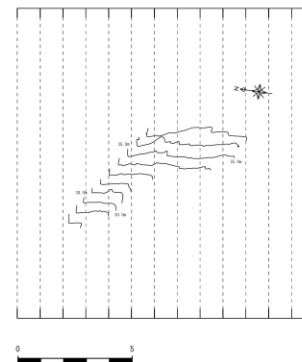
縦断面図

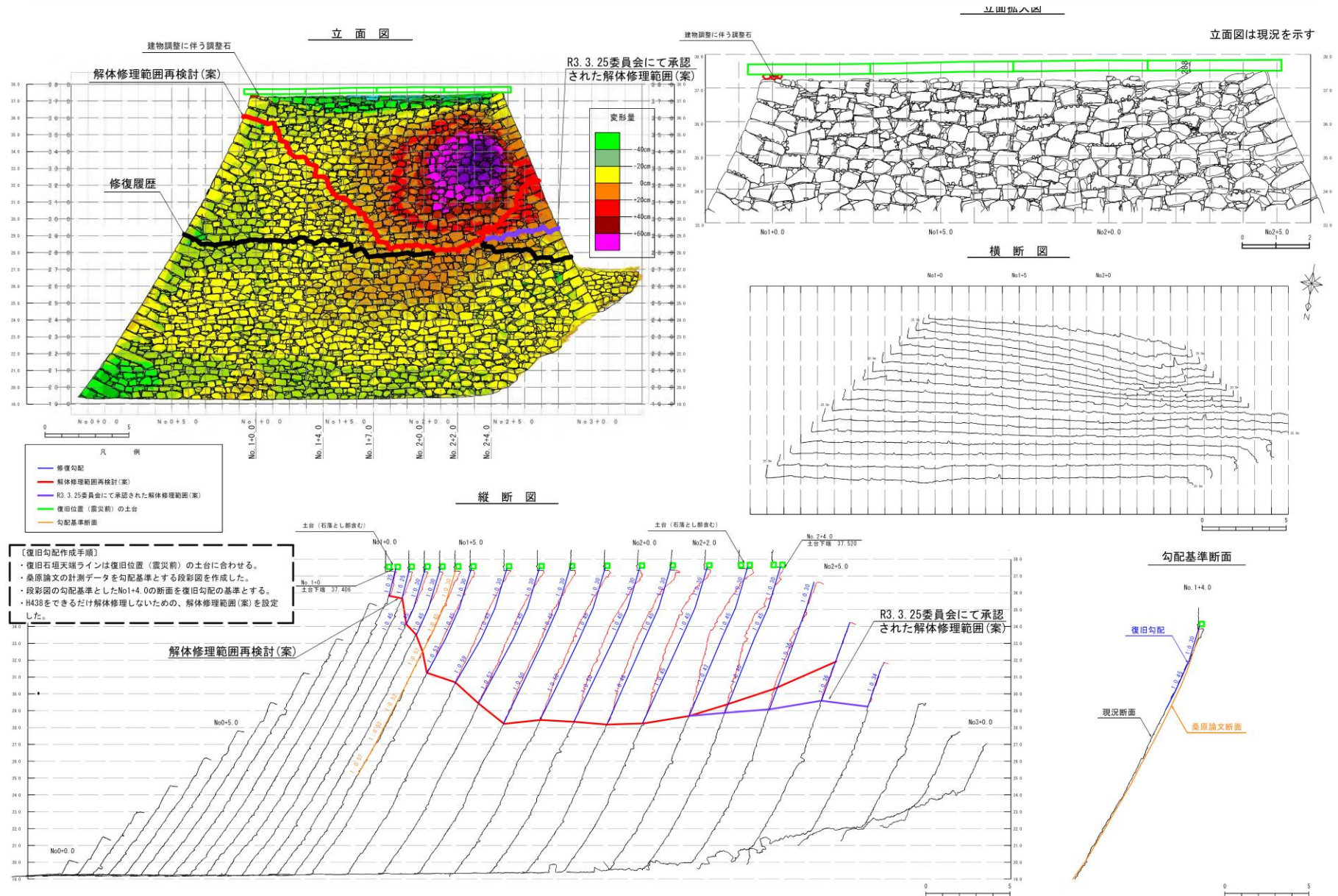


平面図



横断面図





No.	提案者	意見	対応	資料番号
-----	-----	----	----	------

検討事項 1. 平櫓周辺石垣 危険部位の措置（案）について				
1	北野委員	H438の縦断面ライン13.5～14.0付近の危険部位解体（案）の最下部の2石について変状が小さく、残置できるのではないかと。	再検討し、2石を残置できる危険部位解体（案）に変更した	資料3-3
2	山尾委員	H438の危険部位解体（案）が石塁反対側のH433石垣に影響しないのか。	背面栗石の場合の労働安全衛生規則による安全勾配を採用している。影響がないように作業を進める	資料3-3

検討事項 2. H121、H122の解体範囲案の再検討				
		特になし	-	-

検討事項 3. 危険部位回収の早期着手について				
	北野委員	委員長の意見を聞くこと	15日事前視察時に委員長了承	